

# 仙台稲作情報 2023 (第2号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296

http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail : sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

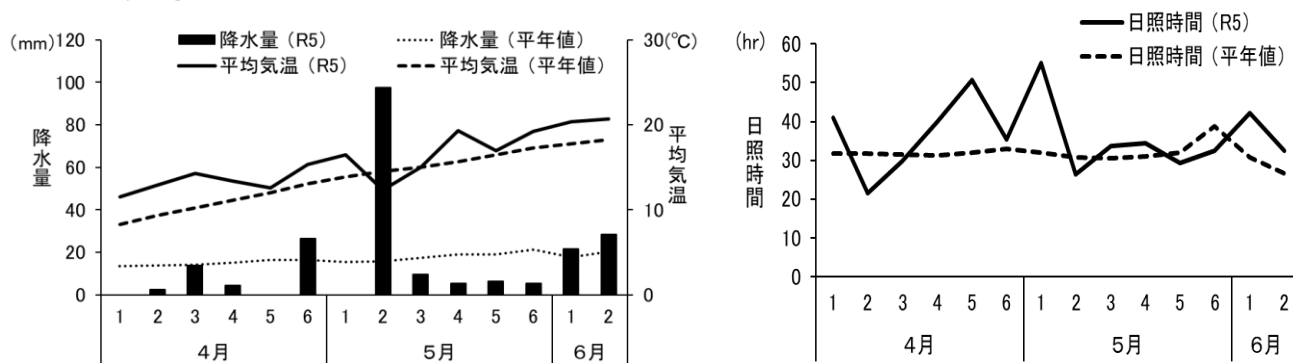
## ○栽培管理のポイント

▷適正な水管理で分けつの発生を促進させましょう。

▷雑草の発生状況を確認し、防除が遅れないようにしましょう。

▷いもち病の発生源となる補植用残苗は速やかに処分しましょう。

## 1 気象経過



- ・5月上旬は平均気温が低い日がありましたが、中旬以降は真夏日を記録する日もあるなど、寒暖の差が大きい1か月でした。
- ・6月上旬は平均気温が平年より高く、日照時間も多く推移しました。
- ・東北南部は6月11日ごろに梅雨入りしたとみられます。

## 2 管内の播種・田植えの状況

### (1) 播種状況

播種盛期は前年より2日遅く、平年並の4月12日となりました。期間中気温が高い日があり、一部で高温障害がみられました。

### (2) 田植状況

田植盛期は前年より1日遅く、平年より2日遅い5月12日となりました。

表1 管内の播種及び田植状況

管内全体	播種状況			田植状況		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
本年	4/3	4/12	4/23	5/3	5/12	5/25
前年差	前年並	2日遅い	1日遅い	前年並	1日遅い	2日遅い
平年差	1日早い	平年並	平年並	平年並	2日遅い	3日遅い

※「始期」は作付見込み面積の5%、「盛期」は50%、「終期」は95%が進行した時期

※「平年差」は前5カ年の平均値との差

### 3 管内の生育状況

- 管内の主力品種である「ひとめぼれ」は、管内平均で草丈が 29.0cm（前年比 110%、平年比 105%）で平年より高く、茎数が 222.4 本/m<sup>2</sup>（前年比 123%、平年比 109%）で平年より多い状況となっています。葉色も 40.4 と（前年差+6.4、平年差+1.8）とほぼ平年並で経過しています。なお、仙台湾沿岸のほ場では茎数が平年より少なくなっています。

表2 6月9日生育調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/14	31.3	121	117	104.0	106	72	37.3	+8.5	+2.1
	北部平坦	大郷町鶴崎	5/13	24.7	97	95	279.9	201	159	42.5	+7.6	+4.3
	西部丘陵	仙台市泉区	5/12	31.1	111	105	283.4	92	97	41.5	+3.0	-1.0
	管内平均			29.0	110	105	222.4	123	109	40.4	+6.4	+1.8
ササニシキ	北部平坦	大和町鶴巣	5/16	29.9			163.0			38.0		
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/15	28.7	98	96	117.8	83	63	36.2	+0.9	-1.8
	管内平均			29.3	-	-	140.4	-	-	37.1	-	-
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5/19	26.7	100	96	105.8	126	78	35	+7.9	+0.5
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	31.7	90		156.6	110		40.1	+3.1	
	管内平均			29.2	94	-	131.2	116	-	37.6	+6.4	-
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	28.7			206.2			37.6		

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。大和町鶴巣「ササニシキ」及び仙台市若林区「金のいぶき」は、新規生産者のほ場であるため平年値なし。

### 4 本田管理

#### 移植栽培

##### (1) 水管理

- 分げつの発生を促進させるために低温時以外は2～3cmの浅水として水温・地温の上昇を図りましょう。
- 「だて正夢」、「金のいぶき」は、茎数が確保しにくい品種です。適正な水管理で分げつを促進させましょう。
- 低温（平均気温が概ね14℃以下）の時は、水深5～6cmの深水としましょう。
- 自然落水したまま田面が露出しているほ場が散見されます。こまめに見回りして適切に水管理をしましょう。
- 生わらなど有機物を施用したほ場では、時々落水して土中への酸素供給とガス抜きを行い、根腐れを防止しましょう。

##### (2) 病虫害防除

###### ①いもち病

- ほ場に補植用残苗が散見されます。本田でのいもち病の発生源になりますので、裏返すなどして直ちに処分しましょう。
- 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、6月中下旬に水面施用剤を散布しましょう。
- 「金のいぶき」はいもち病に非常に弱い品種なので、箱施用剤に加え水面施用剤による2回防除（6月中下旬及び7月中下旬）を実施しましょう。
- 「BLASTAM（ブラスタム）」が病虫害防除所のサイトで公開されていますのでご活用ください。  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

### 【BLASTAM（ブラスタム）とは】

アメダスデータを基に葉いもち感染好適日を推定するシステムモデルです。いもち病の胞子が発芽、感染するためには次の条件が必要です。

- 1.葉面湿潤時間が10時間以上
- 2.葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃
- 3.前5日間の平均気温が20℃～25℃

これら3つの条件が全て満たされると、いもち病の感染に好適な条件となります。感染好適条件が連続し県内広域で出現した場合、約2週間後に葉いもちの発病の増加が始まります。**水田を見回り発生に注意してください。**

### ②イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ

- ・病害虫防除所発表の発生予報第3号（5月29日発行）によると、イネドロオイムシ及びイネミズゾウムシの発生量は「平年並」と予報されています。
- ・稲が小さいうちに加害されると被害が大きくなります。箱施用剤を使用しなかった場合は、以下の要防除密度を参考に防除を行いましょう。

### 【要防除密度】

イネドロオイムシ：成虫密度が100株当たり25頭または産卵最盛期（6月上旬頃）の卵塊密度が100株当たり80個

イネミズゾウムシ：畦畔際2m程度の成虫密度が100株当たり140頭

### (3) 雑草防除

- ・残草がある場合、雑草の種類、除草剤の散布期限（ノビエの葉齢や収穫前日数）を確認し、中・後期剤の使用を検討しましょう。
- ・水田内にヒエやホタルイ類の雑草が目立つほ場があります。これらの雑草は稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せるので、雑草の葉齢を確認して適切な剤を散布し、雑草が出穂する前の7月上旬までに防除しましょう。
- ・斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、7月中旬までにほ場周辺の休耕田や土手・畦畔等の除草に努め、畦畔では雑草の穂が出ないように管理しましょう。

## 乾田直播栽培

### (1) 生育状況

苗立数は163.5本/m<sup>2</sup>で、目標の100本/m<sup>2</sup>に達していました。6月9日の生育調査では茎数が289.6本/m<sup>2</sup>となっており、苗立数が十分であったため、茎数は概ね確保されています。

表3 生育調査結果

品種	地帯	場所	播種日	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉色値 (GM値)	
					本年	前年比	本年	前年比	本年	前年差
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/6	163.5	25.9	86.6%	289.6	150.8%	37	-

苗立ち数調査：5月25日実施

### (2) 今後の栽培管理

#### ①雑草防除

- ・水田を見回って雑草の発生状況を確認し、雑草が小さいうちに除草剤を散布しましょう。除草剤の選定に当たっては、雑草の種類や葉齢、使用時期（「ヒエ〇葉期まで」、「稲〇

葉期以降」等)を確認し、適正に使用しましょう。

## ②水管理

- ・分けつを促進するため、水深2～3cmの浅水管理とします。
- ・低温(平均気温が概ね14℃以下)の時は、水深5～6cmの深水としましょう。
- ・生育が過剰になると倒伏や病害の発生が懸念されるため、そのような場合は落水管理を検討しましょう。

### 【水稲乾田直播栽培勉強会】

仙台湾沿岸地域の乾田直播ほ場を会場に、水稲乾田直播栽培の勉強会(月1回)を開催しています。次回は6月16日(金)午後1時30分に開催しますので、ご興味のある方はご参加ください。

会場の場所等詳しい内容につきましては、仙台農業改良普及センターまでお問い合わせください。

## 5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し(6/8 仙台管区气象台発表)

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。6月12日発表の高温に関する早期天候情報によると、6月18日頃から気温がかなり高くなる見込みです。
- 天気は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

### ■農薬危害防止運動が始まりました(令和5年6月1日から令和5年8月31日まで)

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は、農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

次回の稲作情報第3号は、6月20日に実施する生育調査の結果をもとに6月21日頃の発行となります。